

日 本 史

(問 題)

2016年度

〈H28101121〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～9ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははっきりとマークすること。訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。また、マークシートに消しゴムのかすを残さないこと。

マークする時	☒ 良い	☐ 悪い	☐ 悪い
マークを消す時	☐ 良い	☐ 悪い	☐ 悪い

5. 記述解答用紙記入上の注意
 - (1) 記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を書いてはならない。
 - (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数 字 見 本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- (4) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

	万	千	百	十	一
(例) 3825番⇒		3	8	2	5

6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
8. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

I 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

A 時代には、各地に濠や土塁を巡らした大規模な集落が見られるようになり、青銅器・鉄器が出現する。とくに銅鐸や銅矛・銅戈はそれぞれに分布がことなり、すでにこの時代には共通の金属器を用いる地域圏が成立していたことをうかがわせる。また金属製の武器や防御的施設を備えた集落の出現は、日本列島における戦乱の始まりを示している。そして強力な集落はいくつかの集落を統合し、クニと呼ばれる政治的なまとまり、つまり後の国家の原型を形作っていくのである。

さらに **A** 時代以降の日本列島は、東アジアをめぐる国際情勢とも無関係ではいられない。

すでに1世紀には、こうしたクニのひとつである奴国の王が中国に使者をつかわし、光武帝から印綬を受けたとの記述が『**B**』にみられるが、これは **A** 社会に成立したクニが、東アジアの国際秩序の中に自らを位置づけようとした結果であると言える。

漢が滅んだのちも、三国のひとつである魏にたいして、クニは積極的に働きかける。戦乱が続いたクニグニはやがて共同して邪馬台国の卑弥呼を宗主とする一種の連合体を形成した。239年には卑弥呼は魏から王の称号と金印、そして多数の銅鏡を受け取っている。こうした連合の動きのなかから、後に大和地方を中心とする大規模な政治連合体が形成されていくが、これをヤマト政権と呼ぶ。

4世紀にはいると、ヤマト政権が国家形成のただ中にある朝鮮半島との関わり合いを深めたことが、高句麗の好太王碑文に見られる。また乗馬の風習がなかった日本列島にも騎馬技術がつたわり、5世紀になると各地の **C** に馬具が副葬されるようになる。さらに朝鮮半島だけでなく中国でも、**D** の五王があいついで南朝に朝貢したことが記録されている。

こうした遣使をつうじた東アジアの国際秩序への関与は、後の律令国家の成立以降の遣隋使・遣唐使へと引き継がれていくが、同時にこうした使節は先進的な政治制度や国際的な文化をもたらし、「日本」に大きな影響を与えたのである。

〔問〕

1 **A** に該当する漢字2字を記述解答用紙に記入せよ。

2 下線部 a に該当する名称はなにか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。

ア 環状集落 イ 環濠集落 ウ 土塁遺構 エ 高地性集落 オ 環状列石

3 下線部 b についての説明として、誤っているものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。

- ア 材質は青銅であり、朝鮮半島に起源を持つ。
イ 日本列島で大型化した祭器である。
ウ 表面に絵をもつものもある。
エ 墳墓に埋められることはほとんどない。
オ 個人的な祭礼に限って使用された。

4 下線部 b と下線部 c について、この両者が多数、1つの穴に埋納されていた遺跡はどこか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。

ア 加茂岩倉遺跡 イ 岩宿遺跡 ウ 荒神谷遺跡 エ 吉野ヶ里遺跡 オ 菜畑遺跡

- 5 下線部 d に関する説明として、正しいものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 「奴」とは日本列島全体を指す言葉である。
 イ この記述以前には、日本列島のことは中国に知られていなかった。
 ウ こうした使者は、奴国では遣漢使と呼ばれた。
 エ 印綬を受けてから50年後には、別の王が生口160人を献じている。
 オ この記述に相当すると考えられている金印が、佐賀県から発見されている。
- 6 空欄 **B** に入る書はどれか。1つ選んで、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 史記 イ 漢書 ウ 後漢書 エ 宋書 オ 隋書
- 7 下線部 e のことが述べられている書名と編纂者の組み合わせで、正しいものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 『史記』－司馬遷 イ 『漢書』－陳寿 ウ 『史記』－陳寿
 エ 『三国志』－陳寿 オ 『三国志』－司馬遷
- 8 **C** に該当する漢字2字を記述解答用紙に記入せよ。
- 9 **D** に入る名称に関して、誤っているものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 『三国志』には、この別称として「大和」の文字も使われている。
 イ 7世紀末から8世紀初め以降は、この名称にかわり「日本」が自称として用いられた。
 ウ 卑弥呼に授けられた称号にも使われていた名称である。
 エ 住民のことは「**D**人」と呼ばれた。
 オ 中国でつけられた名称であるが、対外的には自称としても用いられた。
- 10 下線部 f について、五王のうち武は、「記紀」に記されているどの天皇のことであると考えられているか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 欽明 イ 天智 ウ 天武 エ 雄略 オ 応神

II 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

日本における政治制度の変遷を考える際、政権が所在する中央の支配制度とともに、地方制度がどのように変化していったかを考えることもまた重要である。平安京を都としていた時代に、鎌倉という地方に政権を構えた鎌倉幕府にとってもまた、それは同じことであった。全国的な内乱状況の中で幕府を形成していった源頼朝は、滅亡した平氏の残党や、対立する源義経らの勢力を搜索する目的で、西国の国々を中心に **A** を設置することを後白河法皇に認めさせた。この **A** は後に守護と呼ばれて国ごとに設置され、^a大犯三ヵ条をその主な職務とした。但し、^b奥州藤原氏が支配していた地域には守護が設置されず、幕府の直轄統治とされたことは、頼朝が全国支配を進める上で、奥州をとくに重視していたことを意味している。このように、頼朝が鎌倉に幕府を開いたのは、武家政権とりわけ源氏にとって東国が特別な意味をもっていたからで、鎌倉幕府の御家人であった足利尊氏が幕府を京都に開いてからも、鎌倉には鎌倉府を置いて、京都の幕府とほぼ同じような統治機構を整備した。そのため、その後の^c鎌倉府はしばしば自立的な動きをみせることとなった。

一方九州では、鎌倉幕府の支配はようやくモンゴル襲来の前後を通じて本格的に浸透し、1293年、^d博多に鎮西探題が設置された。鎮西探題は、後醍醐天皇が配流されていた隠岐から脱出を図った際、肥後国の御家人 **B** に攻められ

たが、その一族はその後、九州における南朝勢力^eの主力となって、室町幕府の九州支配を脅かし続けた。1360年代に入ると、全国的には南朝勢力は劣勢となっていたが、九州では逆に南朝勢が優勢で、室町幕府は1371年、Cを九州探題として送り込んで以降、ようやくこれを制圧することができた。

17世紀に入って、このような分権社会を克服して成立した江戸幕府は、政治的にはきわめて集権性の高い組織を整備していった。政権の置かれた江戸の周辺や政治・軍事上の要地には親藩・譜代大名^fが配置され、関ヶ原の戦い以降に徳川氏に従った外様大名は江戸から遠い地方に配置された。しかしその一方で、中世から経済の発達した堺や博多、京都などでは多くの豪商が活躍し、近世中期以降も三都や地方都市のもつ経済力の大きさは見逃すことができない^g。

[問]

- 1 A にあてはまるものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
ア 侍所 イ 国司 ウ 知行国主 エ 国地頭 オ 受領
- 2 下線部 a に含まれない業務はどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
ア 謀叛人を逮捕する。
イ 国内の御家人たちに院の御所の警備をさせる。
ウ 反別5升の兵糧米を徴収する。
エ 殺害人を逮捕する。
オ 天皇の御所を警備する御家人たちの指揮を執る。
- 3 下線部 b に関連して、鎌倉幕府の奥州統治のための機関はどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
ア 奥州探題 イ 奥州総奉行 ウ 羽州探題 エ 陸奥将軍府 オ 鎮守府
- 4 下線部 c に関連する動きの説明として、誤っているものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
ア 関東管領の上杉憲実は、鎌倉公方の足利持氏に諫言をした。
イ 6代将軍足利義教は、関東管領の上杉憲実を支援した。
ウ 鎌倉公方の足利持氏は、6代将軍足利義教に攻められ自害した。
エ 結城氏朝は足利持氏の遺児を奉じて結城城で挙兵した。
オ 関東管領を攻めた結城氏朝は上杉憲実を殺害した。
- 5 下線部 d に関連する説明として、誤っているものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
ア 1274年のモンゴル襲来に際して、元軍が上陸した。
イ 寧波の乱の後、この地の商人と結んだ大内氏が日明貿易を独占した。
ウ 南宋からの貿易船が入港した。
エ この地の商人の肥富が日明貿易船の副使として明へ渡った。
オ 足利義満によりこの地に九州探題が設置された。
- 6 B にあてはまる人物の姓名を漢字で記述解答用紙に記入せよ。
- 7 下線部 e に関連して、後醍醐天皇は皇子の一人を派遣して九州の統治にあたらせたが、その際に、その皇子に与えた称号を何というか。漢字4文字で記述解答用紙に記入せよ。

8 C にあてはまる人名は、次のうちのどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。

ア 今川貞世 イ 一色範氏 ウ 菊池武光 エ 足利直冬 オ 大内義弘

9 下線部 f に関する説明として、誤っているものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。

- ア 水戸藩主の徳川光圀は、彰考館で『大日本史』を編纂させた。
イ 譜代大名は三河時代以来の徳川家の家臣であった。
ウ 徳川家康の子であった義直は名古屋城を居城とした。
エ 会津藩主の保科正之は、陽明学に基づく藩政によって名君と呼ばれた。
オ 下馬將軍と呼ばれた酒井忠清は、將軍家綱のもとで権勢を振るった。

10 下線部 g に関する説明として、誤っているものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。

- ア 大坂では鴻池・天王寺屋などが十人両替となり、大名貸しを行った。
イ 日本海沿岸に立地する出羽国酒田は、東廻り・西廻り航路の起点として繁栄した。
ウ 著名な寺社や公家の居住地が集中した京都では、西陣織などの伝統的な手工業が発達した。
エ 享保年間の江戸の人口は町方で100万人、武士で50万人前後に達していた。
オ 鉾山町として発達した佐渡の相川には、幕府の奉行所も置かれた。

Ⅲ 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

1840年～1842年のアヘン戦争後、イギリスが中国における利権を伸展させると、アメリカは、太平洋航路を開拓するため、1853年、東インド艦隊司令官ペリーを日本に派遣した。そして翌年、江戸幕府との間で日米和親条約を調印し、1858年には駐日総領事ハリスが日米修好通商条約を調印した。

明治政府は幕府が結んだ条約の改正を最重要政策の一つに掲げ、1871年、A を特命全権大使とする使節団を米欧に派遣した。この使節団はアメリカとの間で条約改正の予備交渉を行ったが、条約締結国全体が同意しなければ無理だと判明して、最初の改正交渉は失敗した。

1873年に外務卿となった寺島宗則は、関税自主権回復を目指して、アメリカ以外の国とも改正交渉を行った。しかし何が禁輸品かを解釈する権限を外国側が持っている以上、平等性の実効を挙げることが出来ず、領事裁判権撤廃こそが必要だということになり、寺島外交も失敗に終わった。

井上馨外務卿は、税権及び法権の回復を目指し、各国と精力的に改正交渉を開始した。ただし、当時の日本はまだ法典や裁判制度がほとんど整備されていなかったため、やむなく外国人判事・検事を多数任用することとした。ところが1886年10月のノルマントン号事件を契機として、外国人判検事を任用するのは国権侵害であるとの声が高まった。その後、三大事件建白運動が起こって、井上は引責辞任した。

井上の後を受けたB も、当時の状況から見て、完全に対等平等な条約改正は無理と判断、大審院に数名の外国人判事を任用するとの譲歩をした。そして1888年11月に日墨条約を調印したのを皮切りに、1889年2月にアメリカ、6月にドイツ、8月にロシアと矢継ぎ早に改正条約を調印し、他の国々とも協議を開始した。しかし当初、秘密にされていた外国人判事任用の約束が暴露され、さらに外国人判事任用は、1889年2月に制定された帝国憲法に抵触するのではないかとの意見が出て来た。そうして結局、今回の条約改正も国権侵害になるとの声が湧き起こり、頓挫した。

1889年10月、政府は、「平等完全な条約でないならば、むしろ従来そのままにして、欠点のある条約は締結しないほうがよい」として、条約改正中止を決定した。

その後、日本では法典編纂が進み、世界の情勢もまた変化したので、従来、条約改正に積極的でなかったイギリスが態度を軟化させ、1894年7月、陸奥宗光外相は念願の日英改正条約を調印し、法権が回復された。そして1911年2月、小村寿太郎外相は、陸奥条約の不備を改めた日米新通商航海条約を調印し、初めて関税自主権も確立したのであった。

〔問〕

- 1 下線部 a に関連する説明として誤っているものはどれか。1つ選んで、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア イギリスは清国と南京条約を結び、香港を割譲させた。
 - イ アヘン戦争当時の将軍は徳川家慶であった。
 - ウ 江戸幕府は異国船打払令を出して、外国船の来航に備えた。
 - エ ビッドルが浦賀に来航して通商を要求した。
 - オ オランダ国王は日本に開国を勧告したが、幕府は拒絶した。
- 2 下線部 b の内容として誤っているものはどれか。2つ選んで、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア アメリカ船が必要とする燃料・食糧を供給する。
 - イ 下田・箱館を開き、領事を駐在させる。
 - ウ 通商は自由貿易とする。
 - エ 関税率については相互が協定して決める。
 - オ アメリカ人に対し法を犯した日本人は、日本役人が糺問し、日本法で罰する。
- 3 A に該当する人名を漢字で記述解答用紙に記入せよ。
- 4 下線部 c に関連する説明として誤っているものはどれか。2つ選んで、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 熊本出身である。
 - イ 外国人に内地居住・旅行・営業の自由を与える政策をとった。
 - ウ 官営の社交場、鹿鳴館を建てた。
 - エ 帝国憲法草案の起草に尽力した。
 - オ 欧化政策を推進した。
- 5 下線部 d に関連する説明として誤っているものはどれか。1つ選んで、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア イギリスの貨物船である。
 - イ 房総半島沖で難破した。
 - ウ 船長以下乗組員は脱出し、日本人乗客が全員溺死した。
 - エ 神戸領事の海難審判で、船長は無罪となった。
 - オ 国権回復の声が高まった。
- 6 B に該当する人名を漢字で記述解答用紙に記入せよ。
- 7 下線部 e に関連する説明として誤っているものはどれか。1つ選んで、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。
- ア 欽定憲法であった。
 - イ 行政府の権限の強い憲法であった。
 - ウ オーストリア人顧問ロエスレルの助言を得た。
 - エ 陸海軍の統帥権は天皇に直属し、内閣から独立していた。
 - オ 帝国議会は、対等な権限をもつ貴族院と衆議院とからなっていた。

8 下線部 f に関連する出来事として正しいものはどれか。1 つ選んで、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。

- ア 日清戦争の勃発
- イ 清仏戦争の勃発
- ウ シベリア鉄道の起工
- エ 義和団事件の勃発
- オ 甲午農民戦争の勃発

9 下線部 g に関連する説明として正しいものはどれか。2 つ選んで、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。

- ア 第2次伊藤博文内閣の外相であった。
- イ 駐露公使として樺太・千島交換条約に調印した。
- ウ 日清戦争の講和会議に全権として出席した。
- エ 後に元老となった。
- オ 台湾総督となった。

10 下線部 h に関連する説明として誤っているものはどれか。2 つ選んで、マーク解答用紙の該当記号をマークせよ。

- ア 第1次西園寺公望内閣の外相であった。
- イ 日英同盟協約調印時の外相であった。
- ウ 日露協商論者であった。
- エ 韓国併合条約調印時の外相であった。
- オ 日露講和条約調印時の全権であった。

IV 次の英文は第二次世界大戦後の日本における民主主義的な政治・経済・法律改革に関連するものである。この文章を読み、後の問に答えなさい。

The Occupation, which from the first had a civilian as well as a military character, was headed by General (). Its role had been spelled out first in the Potsdam Declaration and then in the Initial Post Surrender Policy. The latter document made it plain that the elimination of a possible military threat in the future was the prime goal, and that democratic tendencies were to be given every encouragement as a means of achieving this. It was expected that the Occupation would work through the Japanese government. This it proceeded to do, with increasing attention to detail.

The determination of the Occupation to succeed was embodied in the Purge. This was a bloodless attempt to eliminate important men from public life, and differed in both purpose and effect from the somewhat dubious arraignment of a few former leaders on a far more serious charge of war crimes, for which Tojo Hideki and six other were executed. As a result of the Purge, professional military and naval men in particular, numbering about 167,000, were prevented from openly participating in politics since it was held that they were largely responsible for leading Japan into war. In all, about 200,000 people were purged with the wider aim of renewing the leadership of the country to protect a parliamentary democracy against the extreme right and, after 1950, the extreme left. Changes in American policy in the East Asia brought communists (who had opposed the war) as well as ultranationalists within the scope of the Purge before it was ended.

In a more constructive fashion, the staff of General () prompted the Japanese government between 1946 and 1950 to pass legislation reforming administration of the law, local government, the police, education, labor relations, rural landholdings, and big business. In many cases the intention was to

restrict the powers of the central government in favor of local authority; in others the aim was a strengthening of the rights of individuals and associations under law. In every case, the Occupation personnel oversaw, where they did not initiate, the work of the Japanese government.

The speed with which the Initial Post Surrender Policy and other directives that flowed from the Potsdam Declaration were put into effect has lent a somewhat spurious unity to these undertakings. The Americans were largely ignorant of Japanese conditions and even of the Japanese language; and success in putting so much legislation through the Diet depended on the willing cooperation of many Japanese.

(出典は、R.H.P. Mason and J.G. Caiger, *A History of Japan*. 原文に一部変更が加えてある。)

〔問〕

- 1 本文の空欄に該当する人名をカタカナで記述解答用紙に記入せよ。
- 2 下線部(1)に関する記述として正しいものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。
 - ア これを受諾して日本は連合国に降伏したが、降伏文書調印は翌年行われた。
 - イ これに先立ち、米、英、ソ連の三カ国首脳が会談してポツダム協定を作成し、戦後のヨーロッパの秩序について合意した。
 - ウ 蒋介石はソ連の脅威によりこれには同意しなかった。
 - エ 英、米、中国、ソ連の四カ国の名でこれを発表した。
 - オ 昭和天皇の「聖断」によりこの受諾が決定され、天皇自身が降伏文章調印に当たった。
- 3 下線部(2)に関する内容として最も適切なものはどれか。1つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。
 - ア 将来起こりうる日本の軍事的な脅威を取り除くこと。
 - イ 治安維持法や特別高等警察などの非民主主義的な制度を廃止すること。
 - ウ 既存の日本政府の行政機構を通じて間接統治を行うこと。
 - エ 日本の政治から超国家主義的な右翼思想を取り除くこと。
 - オ 憲法の自由主義化を徹底すること。
- 4 下線部(3)は具体的にどのような指令をさすか。その名称を記述解答用紙に漢字4文字で記入せよ。
- 5 下線部(4)に関連するものとして誤った記述を2つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。
 - ア A級戦犯は全員有罪になった。
 - イ A級戦犯の他にB・C級戦犯が各地で起訴された。
 - ウ 判事の中には反対する者がいた。
 - エ 天皇は戦犯を免れた。
 - オ 裁判長はアメリカ人のウェッブであった。
- 6 陸海軍に属していた多くの職業軍人も政治活動を禁じられた。下線部(5)の内容に即して最も適切な理由を1つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。
 - ア 彼らは日本を戦争に導いたことで責任があると思われていたから。
 - イ 彼らは全世界を破壊に導く戦争を遂行しようとしたから。
 - ウ 彼らは戦地で捕虜虐待を率先して行ったと判断されたから。
 - エ 彼らは戦争を肯定するために天皇崇拝を日本国民に強制したから。
 - オ 彼らは日本を世界最大の軍事国家にすることをもくろんだから。

7 下線部(6)では議会制民主主義の保護が論じられている。この個所から読み取れる説明として最も適切なものを1つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

- ア 右翼勢力に対してだけでなく、さらに1950年以後は左翼勢力に対しても議会制民主主義を守る必要があった。
- イ 1950年以後の右翼勢力と左翼勢力の対立により、議会制民主主義が危機に瀕したので、それを守る必要があった。
- ウ 1950年以後、左翼勢力が後退し、右翼勢力が台頭して議会制民主主義が否定されそうになったので、それを守る必要があった。
- エ 戦後、右翼勢力と左翼勢力の対立が消失したが、それが1950年以後、再燃したため、議会制民主主義の保護が叫ばれた。
- オ 右翼勢力が、1950年以後ますます活発化し、議会制民主主義の意義が再認識された。

8 下線部(7)に関連して、誤っている記述はどれか。1つ選びマーク解答用紙にマークせよ。

- ア 朝鮮戦争勃発後、総司令部は在日アメリカ軍の空白を埋めるため、日本政府に警察予備隊の創設を指令した。
- イ 海上警備隊が新設された。
- ウ 共産主義者の追放がマスコミから民間企業・官公庁へと広がった。
- エ 警察予備隊に旧軍人が応募できるようになった。
- オ 総司令部はインフレを抑えるためにドッジ＝ラインを片山内閣に指示した。

9 下線部(8)との関連で正しい記述を1つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

- ア 1946年には労働組合の全国組織として左派の日本労働組合総同盟が結成された。
- イ 1945年に労働組合法が制定され、団結権・団体交渉権・ストライキ権が保障された。
- ウ 1945年には労働組合法と労働関係調整法が同時に施行された。
- エ 1947年には第1次吉田内閣のもとで労働省が設立された。
- オ 1947年には労働基準法が制定され、週50時間労働が規定された。

10 下線部(9)との関連で正しい記述を1つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

- ア 幣原内閣は傾斜生産方式を採用し、基幹産業へ資金を供給した。
- イ 財閥解体により日本の民間企業が活性化し、1940年代末には日本経済は戦前の水準に達した。
- ウ 総司令部は1945年に三井・三菱・住友・安田の4つの財閥だけにその資産の凍結や解体を命じた。
- エ 1947年には独占禁止法によって持株会社やカルテル・トラストなどが禁止された。
- オ 過度経済力集中排除法によって巨大企業の分割が行われたが、占領政策の変化により、実際に分割されたのは日本製鉄と三菱重工の2社だけであった。

[以下余白]